

令和6年度 第4回 浜松市立神久呂中学校運営協議会 会議録（要点記録）

- 1 開催日時 令和7年2月21日（金） 午後2時55分から午後5時まで
- 2 開催場所 浜松市立神久呂中学校 大会議室
- 3 出席委員 池谷 昭広、宮澤 俊英、加藤 六明、谷井 文明、池谷 友美子、伊藤 直樹、
松田 友秀、中山 清春、古橋 律子
- 4 欠席委員 なし
- 5 オブザーバー 村松 俊司（神久呂協働センター所長）
- 6 学 校 今明 薫（校長）、吉春 雅子（教頭）、小栗 慎二（教務主任）、河合 恭子（CS担当）、
鈴木 義典（CS担当）、鈴木 佳子（3年学年主任）、倉田 紘和（生徒指導担当）、
森田 美和（CSディレクター）
- 7 教育委員会 浜松市教育委員会教育総務課 牧野 知子
- 8 傍聴人 なし
- 9 会議録作成者 CSディレクター 森田 美和
- 10 議長の選出

司会から、議長の選出について委員に意見を求めたところ、松田 友秀委員を推挙する旨の発言があり、全員異議なくこれを承認した。

- 11 協議事項
 - （1）学校関係者評価
 - （2）令和7年度学校運営基本方針
 - （3）学校運営協議会の自己評価

12 会議記録

司会の河合先生から、委員総数9人全員の出席があり、過半数に達しているため、会議が成立している旨の報告があった。

熟議の前に、委員の皆さんに授業を参観していただいた。また、3年主任の鈴木佳子先生から、3年生の面接練習の報告と御礼があった。

（1）学校関係者評価

議長の指示により、教務主任の小栗先生から、学校評価のアンケート結果に基づき、スライドで結果をまとめた表を見ながら詳しい説明があり、委員からは以下の発言があった。

- ・アンケートの結果から、年々学校が楽しく学べる場となっていることがわかった。子供たちにとって、学校が楽しい場所であるという事は素晴らしいことで、本来あるべき姿だと思う。（宮澤委員）
- ・アンケートの回答の仕方が4択で、また、グラフに表すと、とても分かりやすいと思った。先日の面接練習で、生徒が行事や部活、友達と協力できたことを、学校生活の中で心に残っていることとして挙げている生徒が多かったが、そういう気持ちを言葉に出して言えることは、子供たちの心の中で本当に感じていることだと思う。一方、保護者の回答が厳しいと感じた。健全育成会の集会の時には保護者の参加者が少ないのに、子供への評価が厳しい。もっと子供たちの目線で子供たちの行動や気持ちを感じてほしいと思った。（古橋委員）

- ・ 幼、小、中の一貫教育の地域だからこそ、子供同士の関係性や地域との関わり合いができているのだと思う。しかし、地域主体の行事や活動をしているが、何をどのように中学生に要望しているのか分からない。地域から学校への繋がりがまだしっかりできていないので、参加できない子供もいるのではないだろうか。地域と学校の連携がこれからの課題だ。(中山委員)
- ・ 中学生は塾や部活、他の習い事など本当に忙しい生活を送っているとわが子を見て思う。なかなか地域の活動に時間を作るのは難しいところがあると思う。今出た意見を、今後の学校づくりに生かしてもらいたい。(松田委員)

(2) 令和7年度学校運営基本方針

議長の指示により、校長先生から別紙資料に基づき、令和7年度の学校経営案やグランドデザインなどの詳しい説明があり、委員からは以下の発言があった。

- ・ 校長先生のお話の中で、生徒会がボランティア活動に積極的に参加しようと提案していることに対し、学校生活の中で取り組むことはいいことだと思う。しかし、学校側は、ただ、ボランティアに行ってくれと送り出すだけでなく、受け入れ側も、しっかり形を作っておかないと、ボランティアに来てくれても、何をしてもらうか、何をさせてよいのか分からない。ある程度、学校側もどのようなボランティアで何をするのか把握しておいてほしい。地域の方も受け入れて体制を構築する必要があるだろう。人を思いやって活動をするという気持ちを持って参加すること忘れてはいけないと思う。また、防災訓練の時に親と一緒に来て、何をしたらいいのか分からず、何も行動できていない子が、参加証だけもらって帰っていった。そのような場面を見て心配していたが、他の時に、お年寄りから道を尋ねられ、しっかりと優しく対応している姿を見ることができ、一部しか見ていなかったがしっかり行動できるときもあるのだと感心した。(池谷友委員)
- ・ 中学校での不登校の話題になったが、不登校の生徒はいろいろな状況の子がいる。例えば、学校までは行けるが、教室には入れなかったり、すぐに帰ってしまったりする。また、家から出られない子、通信授業だったら大丈夫な子など様々だ。今後、神久呂中学校内で、「学びの教室」の取り組みが始まるようだが、それぞれの子供の状態や気持ちを把握していかなければならないだろう。人間関係に悩んでいる子も多いだろう。学校での生活の中で、子供たちの自己共有感を育んでももらいたい。(古橋委員)
- ・ 先ほどの学校評価のお話で、「つながる力」の5項目すべて85%の人が良い結果を出していたという事だったが、逆の15%の悪いと感じている子供たちへのケアをどう考えていったらよいかという事が気になった。学校方針の考え方でより良い学校生活が送れるようにしてもらいたい。(松田委員)
- ・ 校長先生のお話の中で「地域」という言葉がたくさん出てきた。学校と地域の連携が重要だという事だが、私たちも地域の一員として、もっと関わっていかなければいけないと感じた。新しいことを始めるのは負担の面もあるが、生徒や学校のために色々な活動をしていくことを考えていきたい。(池谷会長)
- ・ 先ほど話が出た防災訓練のことだが、今までは各町で行っていたが、小中学校が避難所ということもあり、今後は神久呂地区全体でやる計画だ。みんなが参加できる大きな地域活動になるだろう。(宮澤委員)
- ・ 以下の意見に伴い、校長先生から校訓である「自律」は「立」ではなく「律」にしているのは、相手がいることで自分を律するという事を大切にしている。「共に生き、共に育ち、共に学ぶ」

という学校の教育目標にもつながっている、というお話があった。

【学校運営方針の基本方針について拍手での承認を諮ったところ、出席委員全員の拍手があり承認された】

議長の指示により、倉田先生より「いじめ防止基本方針」について、別紙資料に基づき、説明があり、委員からは以下の発言があった。

- ・学校でのいじめ防止は、小学校での経験ではあるが、いじめを未然に防ぐことはとても難しい。人それぞれの受け止め方で感じ方や対応が変わってくる。中には理不尽な思い込みで誹謗中傷されることがある。対応する先生方が心を傷めて子供たちから心が離れないように、少しでも支えていきたいと思う。(池谷会長)
- ・いじめの行為は10年前の中学校とはかなり変わってきていると思う。クラスの中で、集団での無視や悪口など、見える形でいじめが多かったが、現在は目に見えないもの、例えばSNSでの誹謗中傷など、表に出にくいいじめに対して、どのように学校で対応しているのか知りたい。(中山委員)

この質問に対し、

学校ではSNSの使い方やルール作りなどの説明をしている。授業の中でも情報担当が、使い方のほか、いじめを受けたと感じた場合は、証拠になるものをしっかり残すなど、対応も教えている。トラブルを学校だけでは解決できない場合は、警察の方に話して情報を共有する。教員全体で情報を共通理解し、また、教育委員会からの指導を仰ぐこともある。言葉をどう受け止めるかで受ける側も対応する側も変わってくるので、いじめを受けた生徒だけでなく周囲の生徒や保護者への聞き取りもしている。また、保護者への連絡や相談をするなど、情報を共有し、事案に応じて適切な指導、支援をしている。学校外でのSNSやいじめに対しての発見や対応は難しい面が多いが、学校外での出来事なので、そのケースごとに対応が変わってくる。

(倉田先生)

- ・そういう事案から不登校になっている生徒はいるか。(中山委員)

この質問に対し、

ないわけではない。本年度は26件のいじめを確認している。その中にはSNSでのいじめもあった。陰で悪口を言っていたという報告もある。そういったことにも丁寧に指導している。

(倉田先生)

- ・直接生徒がいじめられたことを言うてくることがあるか。(松田委員)

この質問に対し、

直接言ってくれる生徒もいるが、毎日の生活ノートや、年4回のアンケートで知ることもある。

(倉田先生)

- ・表に出にくいことなので、どのように見つけて解決しているのか知りたかった。(松田委員)
- ・部活指導中にいくつかいじめの事例を知った。生徒から話を聞いた後、すぐに学校に伝えて対応してもらった。生徒のちょっとした変化でいじめを見つけられることもある。兄弟姉妹関係から情報が提供される時もある。いかに子供たちの変化を敏感に感じとり、見つけられるかが大切だと思う。子供の目線に立ち、子供との信頼関係が築けると子供たちから話してくれるようになる。また、すぐに動いてくれる大人がいるということで、子供たちが話しやすくなるのではないだろうか。生徒や保護者から、先生へ直接相談するのはなかなか難しいと聞いたことがある。部活が地域移行するタイミングで、第三者が学校に入ることによって、子供たちの話

を聞いてくれる人が多くなるというメリットがあるかもしれない。先生、親に言えないことが、地域の人に話せる機会になればいいと思う。いじめが早く発見でき、おおごとになる前に解決できるのが理想だ。(加藤委員)

- ・地域の人が生徒の話を聞いたり変化を感じたりできる良いモデルケースになるといいと思う。相談できる大人が周りにたくさんいるということを生徒に分かってほしい。子供たちに積極的に関われるといいと思う。(松田委員)
- ・子供たちに何回も会って言葉を交わさないと子供との信頼関係は築けない。あいさつ運動の時に声をかけ、注意深く見て、こちらも態度に出さないと、なかなかいじめまで気づけない。何かあったときは、今は直接子供たちに言わないで、学校に事例を伝えるようにしている。あの場所にいるあの人に伝えれば話を聞いてくれると子供たちに感じて信じてもらえることが大切だろう。(古橋委員)

(3) 学校運営協議会の自己評価

事前に池谷会長と学校側で、委員の皆さんからの自己評価の結果を基に、以下のようにまとめた意見が発表された。

【評価項目 1】 学校運営の基本方針について熟議することができたか

校長先生より学校運営に関わる丁寧な説明があり、基本方針などを十分に理解し、熟議することができた。また、委員による学校行事や授業の参観、3年生の面接練習や授業支援等で直接、生徒とかかわる場面が増え、より生徒の実態把握・学校への理解が進んだ。そのため、常に建設的な意見が発言され、活発な熟議ができた。学校の付けたい力や課題、地域とのつながりなどについて熟議できた。

【評価項目 2】 教育活動の充実につながる学校支援活動についての熟議

学校及びコーディネーターから生徒や学校を支援する活動の計画が示され、熟議を通して、具体的なよりよい方法について検討することができた。活動報告では、活動の充実につながったとの報告があり、来年度も熟議を重ね、よりよい活動を行っていく。

【評価項目 3】 十分な情報発信

本協議会の内容については、学校HPでの掲載を通して情報発信を行っている。しかし、HPをみることができる人ばかりではないので十分とは言えない。学校HPの認知度を上げていく手立てが必要である。それでも、本年度は、委員が、各々の立場で協議結果について発信を行った。委員の方が参加される会議などで、学校運営協議会の会議録の記載内容を発信した。

【評価項目 4】

来年度も本年度の目標を継続していく形でよい。活動内容については、振り返りを行い、よりよい活動となるようにしていく。他の組織（特にPTAと学校運営協議会）との連携をどのように推進していくかが今後の課題である。また、令和8年度の地域クラブ活動への生徒が土日を過ごす居場所づくりを進めていく。その方法も含めて熟議が必要である。

その他連絡事項

- ・教頭先生より、夢育やらまいか事業についての説明と、卒業式と入学式の御案内があった。
- ・司会から、次回令和7年度の学校運営協議会の開催予定の提案があった。